

令和5年度 学校経営計画

杉並区立三谷小学校
校長 榎本 純子

☆杉並区教育ビジョン2022

【I 私たちが大切にしたい教育】みんなの幸せを創る杉並の教育

- ◇学び合い、信頼をつくり、共に生きる
- ◇ちがいを認め合い、自分らしく生きる
- ◇誰もが社会の創り手として生きる

【II 一人ひとりが教育の当事者として心がける視点】

- 1 子どもの思いを尊重する
- 2 ちがいを受け入れる
- 3 対話を大切にする
- 4 学びの成果を贈り合う
- 5 社会を創る当事者として考える

1 教育目標

地域と共に育つ学校づくりを推進するため、家庭や地域と連携した教育活動を展開し、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。

「地域ではぐくみ、世界へ巣立つ三谷の子」

- ち 知識を広げ、知恵を深める
- い いのちをみつめ、心をはぐくむ
- ◎き 気力を養い、体をきたえる

2 目指す学校像

- ・子どもたちみんなが友達や先生に会いたいと登校してくる 三谷小学校
- ・保護者から、この学校に子どもを通わせてよかったと思われる 三谷小学校
- ・地域の方から愛され、地元の誇りだと感じてもらえる 三谷小学校

3 目指す児童像

人間性豊かな たくましい児童（学校・友達が好きで自己肯定感が高い児童）

- か かんがえる子・・・自らよく考えよく学ぶ
- が がんばる子・・・困難なことにもあきらめず挑戦する
- や やさしい子・・・思いやりの気持ちをもつ
- け けんこうな子・・・明るく心も体も元気

4 目指す教師像・教職員像

- ・子どもの思いや気持ちに寄り添い、保護者・地域を大切にする、心温かな教職員。
- ・教育公務員としての自覚をもち、保護者や地域の方々から信頼される教職員。
- ・心と体の健康を保ち、明るく笑顔あふれる教職員。
- ・常に学び続け、向上心をもち続ける教職員。（日々の授業が何より大切！）

5 学校経営の基本方針

- ・児童一人ひとりの「生きる力」を育むため、「主体的・対話的で深い学び」を実現していく。
- ・児童一人ひとりに、粘り強さや柔軟に考える力を身に付けさせ、最後までやり抜くことができる児童を育成する。
- ・学校、家庭、地域が一体となり、協力して地域に根差した教育を行う。
- ・校内組織体制と個に応じた指導体制の両面から、特別支援教育を充実させる。
- ・運動の日常化を目指し、体力向上を図る。
- ・3S（スマイル・スピーディー・セーフティ）を心がけ、安心・安全な学校作りを行う。

6 基本方針の具体化

① 学習指導

- ・「主体的・対話的で深い学び」を視点から授業改善を行う。（「学びの構造転換」を意識した授業づくり 校内研究を中心とした日々の授業改善）
- ・学びの個別化・探求化・協同化に向けて、一人一台のタブレット端末を積極的かつ効果的に活用する。（タブレットを一斉に使うだけでなく、児童が選択して使う段階をめざす）
- ・最後まで粘り強く考えること、違う視点から解決策を考えようとするを重視する。
- ・ユニバーサルデザインの視点に立ち、学習環境を整える。（整理整頓された教室、丁寧な字で書かれたわかりやすい板書、すっきりとした掲示物）
- ・一人ひとりの児童の基礎的、基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。
- ・読書を推進することで、豊かな表現力や想像力を育む。
- ・年間を通して、長縄、短縄、持久走等を実施し、体力の保持増進を図る。
- ・道徳教育の重点を「生命の尊さ」とし、指導内容の充実を図る。
- ・ALT・JTEとの連携を密にした外国語科、外国語活動の授業を展開する。
- ・総合的な学習の時間では、「地域とのつながり・食育・自然環境」を核とした探究的な学習を行う。自然とかかわる体験を多くすることで感性豊かな児童を育てるとともに、環境を守るための素地を養う。また学校支援・地域共生本部と連携し、地域人材や地域の施設を活用した授業を展開する。
- ・特別活動では、集団活動（たてわり班、クラブ、委員会、学校行事）を通して、集団と自己の課題を見出し、その解決のためによりよい人間関係を構築しようとする態度を育成する。

② 生活指導・安全指導・キャリア教育

- ・学校、保護者、地域が連携して「三谷スタンダード」に基づいた規範意識を、すべての児童に身に付けさせるよう努める。
- ・いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・早期対応・早期解決に向けて全教職員で一丸となって取り組む。
- ・不登校傾向の児童に対しては「さんやステップアップ教室」を核とし、全ての教職員、関係諸機関と連携して、一人ひとりに応じた指導や支援を進める。
- ・毎月の安全指導を核とした日々の安全教育等を通して、危険を回避するための知識や実践力を育む。
- ・「防災教育デー」を設定し、体験的な学習を進め、自助・共助への意識を育む。

「さんやステップアップ教室」とは
・様々な事情で教室にいられない子の居場所・拠り所
・学校復帰の足掛かりとなる適応指導を受ける場所
・教室復帰支援の基地

- ・児童が様々な人との関わりの中で、自分のよさに気づき、自己実現に向けて努力しようとする態度の育成に努める。(キャリアパスポートの活用)

③特別支援教育

- ・特別支援教育コーディネーターを中心に組織的な支援を進め、校内支援委員会での情報交換を月 1 回以上行う。
- ・特別支援教室拠点校としての強みを生かし、全ての児童を全教職員で指導・支援していく体制を整える。

④幼保小中連携

- ・年 3 回の小中連携研修会を計画的に実施していく。
- ・スタートカリキュラムや幼保小連携全体計画に基づき、連携園との交流を計画的に実施し、きれめない教育を進める。

⑤地域特性・学校の強みを生かした教育

- ・地域運営学校(コミュニティ・スクール)として、家庭・学校・地域のつながりを大切にして、子供たちの育ちを共に支える取り組みを推進する。(CS校としての歴史)
- ・「さんこら」(学校支援本部・地域共生本部)のサポートを最大限に生かして、地域ぐるみで教育活動の充実に努める。
- ・近隣施設や学校と連携した教育活動を進める。(杉並工業高校、農芸高校、東京女子大学、ワセダクラブ等)